2025年度　活動報告

お茶の水の会

2025年度

【お茶の水の会】活動記録

日本臨床美術協会・登録団体

入江基代
加藤力
佐野江美子
高橋文子
蜂谷和郎
青木理栄

対話型鑑賞を行います。 作品をみながら感じたことを自由に語り合う気軽な会です。

2025年6月27日（金）

19:00〜20:00

（ハイブリッド）

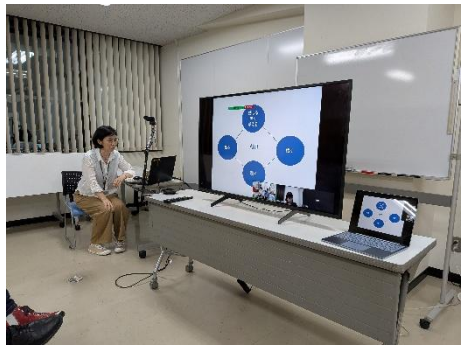
★参加者：対面5名

オンライン1名

★終了後懇親会

「勉強会」●対話型作品鑑賞 実施内容

VTS（ Visual Thinking Strategies ）の手法を用いた対話型作品鑑賞を行いました。対話型作品鑑賞は、美術作品を鑑賞しその後ファシリテーターの質問に参加者が答える形で、作品について自由に意見を交換します。質問は、「この絵の中で何がおこっていますか？」「どこからそう思ったのですか？」といった、観察や思考力を刺激するものが中心となります。
今回は、ウオーミングアップのあとで下記2点の作品を鑑賞しました。
●マルク・シャガールの「私と村」
●ヒルマ・アフ・クリント「10の最大物、グループ IV、No.3、青年期」



感じたこと
感想　part1

「勉強会」●対話型作品鑑賞

●司会進行　高橋

●司会がいることで、一つの発言に対し「どうして」｛なぜ」「この絵の時間）などと投げかけることで、思考を深めていくことが体験できました。話の進め方が、描かれている内容によるものがほとんどでしたが、もっと造形的な内容（色、リズム、形、動き等）を中心とした話題があってもよいかなと思いました。（加藤）

●通常スルーしそうな作品もギャラリートークによってじっくりと観察することが出来た。時間もちょうど良かったのではないでしょうか。（蜂谷）

●久しぶりにギャラリートークに参加して、あらためて他者の意見を聞きながら作品を観るというのは新鮮な体験でした。特にスタッフ同士でこのような機会（例えばアートについて語る…とか）がないので、それぞれの個の感性を垣間見る感じもあって面白かったです。時間がもう少しとれると良いと思いました。（青木）

感じたこと
感想 part 2

「勉強会」●対話型作品鑑賞

● ひとりで鑑賞するときは独り言のように思考や感想を深めていく作業になりがちですが、複数人で対話しながらの鑑賞は、誰かの感想や思考を触れることで世界がどんどん広がっていくように感じました。自分の思考の世界が広がるようでとても楽しかったです。欲を言えば、臨床美術のセッション（現場）での組み込み方も考えてみたかったです。（入江）

● 私はZOOMでの参加でしたので、作品鑑賞の場面を俯瞰して見ているような感覚で、さらに、みんな意見も別世界での意見のように感じて、どこかで行われている作品鑑賞のコメントが特徴的で無く、強弱が無く、平坦に自分の中に入ってきました。厚みを持たない他者の感想は自分の考えを深めるのに良い環境でした。（佐野）

なかなか機会が無い展示内容なので、みんなで行ってきました。

2025年7月8日（火）

20:30〜22:00

（東京・豊洲）

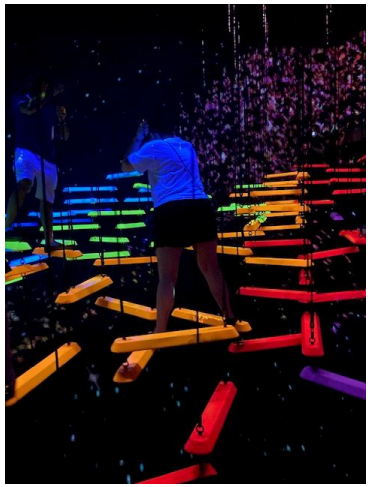
★参加者　6名

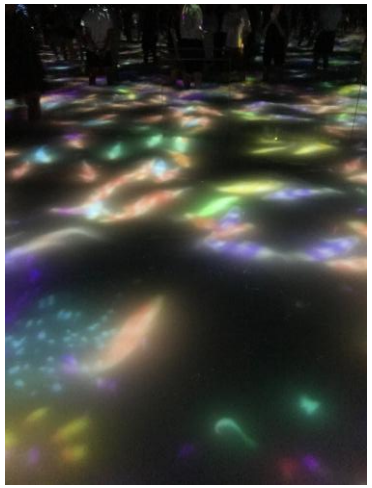
チームラボプラネッツ TOKYO ● ミュージアム

https://www.teamlab.art/jp/e/planets/

アートコレクティブ・チームラボによる水に入るミュージアム

（以下チームラボプラネッツのホームページから引用）
作品は、自分や他者の存在によって変化し、作品の存在は、自分の身体や他者と連続的である。そのような巨大な作品群に、他者と共に、身体ごと没入し、身体で認識し、アートと一体となる。





感じたこと
感想 part1

チームラボプラネッツ TOKYO ● ミュージアム

●行ってみてよかったです。一人ではまずいかないので、皆さんと一緒に行けて楽しかったです。

全身で感じることと、最新の技術が融合されていて、とても面白い体験と学びになりました。

ディズニーランドとかが一方的に情報が注入されていくのに対し、参加体験の工夫はなされていると思いました。

ただやはり情報量が多く、年齢の高い私にとっては溺れ気味で、楽しさよりも疲労の方が大きかったように思います。

感じる隙間がないというか・・・

世の中の大多数の楽しさが外から与えられるもので出来ている中で、臨床美術の特異性をやはり大事にしたいなと思います。

（加藤）

感じたこと
感想　part2

チームラボプラネッツ TOKYO ● ミュージアム

●初体験ばかりで刺激的ではありましたが、もう一度行ってみたいとは思えなかったです。
ずっと見ていたいといった欲求は湧いてこなかった、ずっとその場にいると疲れてしまうのは夜のため？歳のため？ダヴィデ像は半日見ていても飽きなかったのに。この差を考えさせられる貴重な時間でした。
おそらく自分で行かなかったところだったので行けてよかったです。それにしても企画運営する側は大変だろうなと思ってしまうのでした。
（蜂谷）

●目に見えるものは幻想的でとても美しくて、ゲーム感覚で触れられるものは、アトラクションみたいでとても楽しかったです。ただ、終始ずっと決められた世界のなかで誘導されて没入させられる感じが、わたしには少し窮屈に感じるところがありました。会場的にアナウンスがわかりにくかったり、足元が暗すぎて危ないなど危険を感じるものが多くて苦手です。楽しいからこそ誰にでも安心して体験できるように改善できればいろいろな人に楽しいから行ってみてと言えるのになと思いました。（入江）

感じたこと
感想 part3

チームラボプラネッツ TOKYO ● ミュージアム

●自然の中で感じる感覚を場面場面で疑似体験させてもらっているような印象でした。
圧倒的なスケール感と光の量とで、“美しい”と思えるものを提供してもらっているのですが、何か自分がおいてけぼりにされているような感じもしました。美しいと感じることを強要されているように自分で受け取ったのかもしれません。
大自然の中にいても強要されているようには感じないので、やはりこちらは人間が意図して作ったものだからでしょうか。
でも、クールダウンするように暗い道があったり、裸足になったり多くの工夫があると思いました。
あらためて、臨床美術は、人間自身に意識を向けて、一人一人の中にある感覚を味わうアート、美しさもそれ以外の感情も含めて、自分と他者の感覚を感じて、それを楽しむアートなのだなと感じました。（高橋）

感じたこと
感想 part4

チームラボプラネッツ TOKYO ● ミュージアム

●全体的にはずっと気になってはいたものの、行かれずにいたので皆で行けたのはとても良かったです。
体験としては面白かったですが、私も何度も行きたいとは思わないかなと思いました。
１回じっくり体験したら、それで満足、完了！という印象でした。
ゲーム的というか体験してクリアしたらそれでOKという感じで、体験するごとに新たな展開や感覚の刺激というものは生まれないからでしょうか。
内容としては、五感の中の”視覚”というものについて考えました。
錯視の効果もたくさん使っていたと思うのですが、どれだけ日々の生活の中で視覚で情報をキャッチして行動しているのかをあらためて実感しました。
視覚の感知を活用したさまざまな提案があって、新鮮な体験もあったし一方で非常に疲労感を感じたり、だんだん心地悪くなってくる感覚もありました。
それと興味がわいたこととして、あれだけ外国人が多いということでどんなところが外国人をひきつけているのか理由を知りたい。
海外ではあのような映像を利用したものがないということもあるのかもしれないですが、それだけではない何かがあるのではないかと思ったので、そこに興味を持ちました。
先々、臨床美術の外国人の方々へのアプローチやプログラム選定などのヒントにならないのかなぁ…と思った次第です。（青木）

感じたこと
感想 part5

チームラボプラネッツ TOKYO ● ミュージアム

●海外の方がほとんどで、国内の方が何故少ないのか日本人があまり行かない観光地になっているのですね。
展示の光や色は刺激的で、自分が動くと光や色形も変化していく感覚は遊園地のような楽しさがありました。
ただし、自分で意図して動いても意図したようには色も形も変化しないので、自分の表現が反映できない感覚に馴染めなくて脳の披露を感じました。
水の中を歩く展示は、素足で水の中を歩く感覚が新鮮で、暗い部屋の中を大勢が歩く光景は現実からは乖離した世界で、一人で行ったらあの非現実世界から抜け出せなくなっていた可能性を感じました。（その後少しの間異空間の間隔から抜け出せなくなるなど）
人工的な刺激と表現について考えるいい機会になりました。（佐野）

風が気持ちよい高台のお宅でした。メンバー以外のご家族やお子さんも参加くださっています。

木戸修先生のお宅訪問 ● 施設ミュージアム

2025年8月31日（日）

11:00～15:30

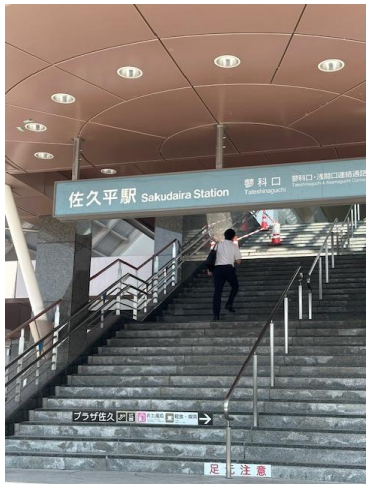
（長野県・佐久市）

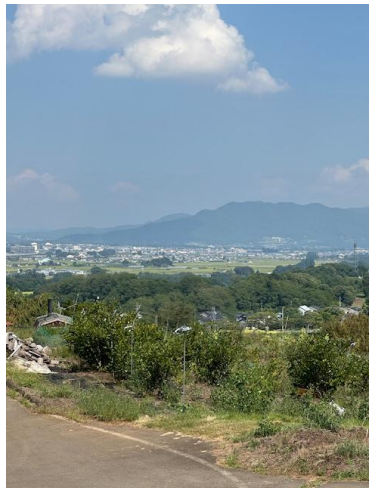
★参加者　10名

登録団体メンバー＋5人

日本臨床美術協会理事長・臨床美術協会会長で彫刻家の木戸修先生のお宅を訪問。
http://www.kido-osamu.com/cn11/about.html

佐久市の高台にある広いお庭でお昼をご一緒して、思い思いにスケッチをしました。





風が気持ちよい高台のお宅でした。メンバー以外のご家族やお子さんも参加くださっています。

木戸修先生のお宅訪問 ● 私設ミュージアム

ミュージアムのように
お庭に作品が点在。

木戸先生のお宅庭に展示されている作品一部

風が気持ちよい高台のお宅でした。メンバー以外のご家族やお子さんも参加くださっています。

木戸修先生のお宅訪問 ● 私設ミュージアム

思い思いにスケッチの
時間も取りました。

メンバー以外の方も一緒に静かな時間が流れました。

風が気持ちよい高台のお宅でした。メンバー以外のご家族やお子さんも参加くださっています。

木戸修先生のお宅訪問 ● 私設ミュージアム

感じたこと

●久しぶりに自然の中に身を置き、自分自身も自然の中の一部であるという感覚を味わいました。蝉の声や木々のざわめき、風や空気の流れ、さまざまな匂いや味覚などまさに五感フル活動の体験はとても心地よく、幸福感を感じる時間でした。慌しい日常の中で、自分と向き合う時間でもあり、こういう時間の必要性と重要性を感じる体験でした。（青木）

●自然環境も含め環境が違うと、自分は同じでも、見えること、感じること、体験することが違うということ、今の自分は自分が選んだ自分だけど、この先もいろんな選択肢があること。臨床美術の現場もどんな環境に設定していくかで、参加者の感じることが違ってくるなと改めて考えた。（佐野）

風が気持ちよい高台のお宅でした。メンバー以外のご家族やお子さんも参加くださっています。

感じたこと

木戸修先生のお宅訪問 ● 私設ミュージアム

●とても素晴らしい場所でした。こんな見晴らし居場所にあるとは感動です。木戸先生のスタジオを見学させていただけたこと嬉しく思います。作りかけの作品、建物の構造や大量にある工作機械、ワクワク興奮しました。なかなか見せてもらえるものではないですね。自分も制作へのモチベーションが上がりました。
料理していただいた方々に感謝いたします。私は腰痛で役立たずで申し訳なかったです。
みんなで小さなスケッチをしたのもよかったですね。いい時間を過ごさせていただきました。(加藤)

●景色や空気、気温を肌で感じながら見つけたものをスケッチすることで、臨床美術で大切にしている「感じる」ことが改めて制作に影響するんだなと実感しました。それとコミュニケーションやお互いに理解を深める場にもなるのですごくいい時間を過ごせる機会になると思いました。(入江)

風が気持ちよい高台のお宅でした。メンバー以外のご家族やお子さんも参加くださっています。

感じたこと

木戸修先生のお宅訪問 ● 私設ミュージアム

●作品を制作するうえで環境は大きな影響を与えるものだと再考しました。

普段お茶の水ではできない別世界での交流ができたのも良かったですね。

今回のように日帰りで美術館に行くのも良いかも。

例えば無言館や箱根彫刻の森など（蜂谷）

ーーーーー

★高橋さんは同時期に近くの山を縦走中とお聞きしました。

メンバーと同時にお茶の水には無い自然環境で過ごされていました。

日差しが暖かな一日でした。無言館の中は気温が低く抑えられていました。

2026年2月13日（金）

18:00～ 19:00

（ハイブリッド）

★参加者　６名

総会　●美しいチョコレート

各自　チョコレートを持ち寄って味見をしながら
今後の活動について相談

日差しが暖かな一日でした。無言館の中は気温が低く抑えられていました。

2026年3月23日（月）

11:00〜 14:30

（長野県・上田市）

★参加者　5名

無言館 ●戦没画学生慰霊美術館

https://mugonkan.jp/　https://mugonkan.jp/galleries/

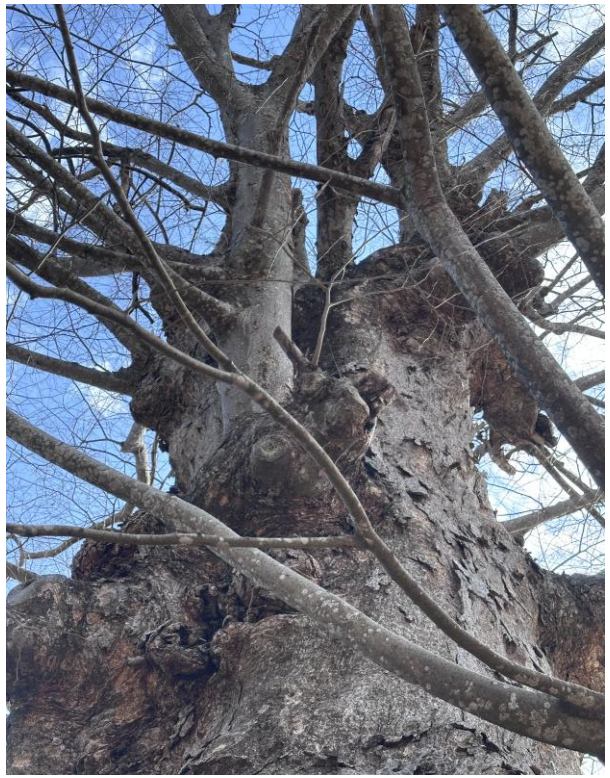
1997年５月２日　窪島誠一郎氏によって開館された私設美術館

スケッチブックを持参したメンバーはスケッチも楽しみました。

スケッチに最適な風景と樹木

無言館 ●戦没画学生慰霊美術館

- 無言館近く
  山王山公園の大木



- 無言館近く
  前山寺参道の巨樹

日差しが暖かな一日でした。無言館の中は気温が低く抑えられていました。

感じたこと

無言館 ●戦没画学生慰霊美術館

● 無言館内や無言館周辺を含め音が少なく、ずっと頭の中で耳鳴りが聞こえていました。無言館の館内は私語もなく静かでしたが、戦没学生から家族へ向けた手紙や家族を描いたスケッチなども展示されていて、暗く寒い館内に暖かさや作品の持つ力を感じました。都内山の手線の駅を降りたとたんに音があふれていて、１日の滞在でも静かな環境がなつかしくなっていました。（佐野）

● 無言館訪問は2回目でした。表現することへの強い想いが作品の中に強く込められていて、もっと描きたかった方たちが、戦争によってその想いに蓋をせざる得なかったのは苦しいです。
自由に表現できる時代に生きている私たちがすべきことを考えさせられる機会でした。
だから何をということはまだまとまりませんが、このもやもやを抱えていきたいと思います。（高橋）

日差しが暖かな一日でした。無言館の中は気温が低く抑えられていました。

感じたこと

無言館 ●戦没画学生慰霊美術館

● 表現を生業としている人は表現の自由に最も敏感でなければならないと思っています。かつての日本は情報統制と表現の自由を奪うことで戦争に突き進んでいきました、無言館は私たちに同じ過ちを繰り返さないために無言で語りかけてくれているのでしょう。表現方法は違っても、もやもやを抱えながら作品を作り続ける事が使命かもしれません。シンガーソングライターの小室等(多摩美彫刻出身)は私の表現の根底には反戦平和があると言っています。（蜂谷）

● 様々な作品が展示されていますが、戦争に向かう状況を描いているものもありますが、今を大切にする目線で描かれた作品が多くあると思いました。この方たちが生きていたら、どのような美術の人生を歩んでいたのだろうかと考えさせられます。また、遺族が長い間保管しておられた話が多く見受けられました。戦死のお知らせを受け、存在の空白ができる。これらの作品は、その空白をなんとかつなぎ止めておくものであり、確かにいたのだ、生きた証なのだと言うことが伝わってきます。（加藤）

日差しが暖かな一日でした。無言館の中は気温が低く抑えられていました。

感じたこと

無言館 ●戦没画学生慰霊美術館

●　まずは戦争についてあらためて考える機会となりました。現在の社会状況を考えても戦争はとても身近になりつつあり、何とも言えない気持ちになりました。一方でArtの意味を確認した時間でもありました。臨床美術が言ってきたこと、行っていることがそのまま目の前にある感じがしました。表現はまさに生を、その瞬間をそこに残していく作業であり、形があるものだからこそ遺された作品を通して、そこに向き合う者（見る者）は様々なものを感じたり思いを馳せることができる。大宮医師会市民病院や高齢者の方々の作品と重なる部分も私はどこか感じていました。（青木）

●しんと静まり返った寒い館内は、まるで別世界に迷い込んだかのようでした。けれど、展示されていた作品は、描く喜びや探究心が凝縮された、若さあふれる作品ばかり。戦争という事実に胸が痛む場面もありましたが、何より作品自体の力強さに心を打たれました。見終えたあと、わたしも絵を描きたいという前向きな気持ちでいっぱいになりました。（入江）

課題－2025年度の活動を通して見えてきた今後の課題

2025年６月　対話型作品鑑賞
2025年７月　チームラボプラネッツTOKYO 体験型ミュージアム
2025年８月　木戸修氏ミュージアム・スケッチ
2025年２月　総会
2026年３月　無言館　私設ミュージアム・スケッチ
2026年４月　2026年度活動計画検討

〇多様な体験を通して臨床美術士としての感性を刺激し、新たな感覚をインプットすることで、臨床美術士としての幅を広げることを目指し活動をして します。
少ない人数ですが、活動のために全員が集まる日程を確保することが難しいということが当面の課題です。

展望・目標－2026年度の計画

〇2026年度は　2025年度に実施できなかった企画を実施予定
「一人では一歩前に進めないことを、グループの活動として実施していく」

・話術を磨く（落語から学ぶ）
・パフォーマンスを磨く（演劇から学ぶ）
・歌声を磨く（高齢者向けの歌を極める）
・無言館　第二弾（スケッチを楽しむ）